



11月号 令和4年10月31日発行

# 荏田小たより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL911-0149]  
[<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/>]



## 社会科授業を通して感じたこと

～子どものつぶやき、ハッとする発言を生かすことの大切さ～

校長 伊藤 智樹

今年度の運動会は天候にも恵まれ、子どもたちは力いっぱい表現したり走ったりすることができました。コロナ禍になってから3度目の運動会でしたが毎年徐々に種目を増やしながらの開催でした。

本番に向けて、保護者の皆様には、子どもたちを励ましてくださるなど多くのご支援をいただきました。当日も参観人数の制限や感染対策にご協力いただきながら、子どもたちの活躍する姿を観ていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。



5年水産業の学習では、左の写真のようなサンマ漁船簡易模型をもとに子どもたちの思考を働かせながら問題解決をしていく授業展開を考えてみました。写真の船はサンマが光に集まる習性を利用する「サンマ棒受網漁」と言われる漁を行う漁船の簡易模型です。この漁の特徴は白色灯と赤色灯を使い分け、消したり点けたりして左舷側の網に追い込んで獲る漁です。子どもたちはこの簡易模型を見た瞬間「なぜ網が左舷側だけなのか」「魚が光に集まるのは分かるけどなぜ白色灯がたくさんあって赤色灯が1カ所だけなのか」などの発言が多数出ました。子どもたちは船長になりきって「**効率よく網にサンマを集めるために白色灯と赤色灯をどのように消していくのか**」という視点で根拠をもとに学級全体で話し合っていました。

子どもたちは水産資源管理のためマグロなどに代表されるような漁獲量制限、排他的経済水域や養殖業については学習済みです。そこで水産業のまとめとし東京湾の「**アナゴ筒漁**」を取り上げました。

アナゴ漁で使う筒の長さは約85cm、その筒に直径約13mmの穴が多数開いています。これも実物ではなく紙で作った簡易模型を見せました。「アナゴは細長いから両側から餌を求めて中に入ると・・・」「でも筒全体に穴がたくさんあるとアナゴが出てしまう」「筒の穴は空気穴かな」「穴は水抜きのためなのかな」等学級全体の思考は穴に集中しました。冒頭の「先生これだと餌の『**食い逃げ**』じゃないですか」は穴から餌を食べて出て行ってしまふアナゴの存在に気付いたときのものです。この発言をきっかけに「**穴から出て行ってもよいアナゴ**」＝「**まだ小さなアナゴ**」がつながったようでした。「**卵を産む前の小さなアナゴを獲りすぎると数が減っちゃう**」や「**海が大きな養殖場みたい**」と発言する子どももいました。教科書やiPadなどで言葉としての知識はすぐに確認できてもその意味を理解し、概念として身に付けるためには思考というプロセスが必要です。冒頭の発言をきっかけに学級内の思考は深まり、「水産資源の管理」という概念に迫ることができました。



荏田小に着任してから社会科の授業をする機会があり今年度も3年～6年生の授業を行いました。「どのような発言をするのかな、どのようにノート記述するのかな」「この資料提示は大丈夫かな」「子どもたちの考えを吸い上げられなかったなあ」ワクワクドキドキ、時には指導法の反省もしながら子どもたちの前にいる自分がいます。授業は同じ資料を使ってもクラスによって流れも違います。教師の問いの仕方によっても変わります。授業は教師と子どもたちにとって「一期一会」と言えます。子どもとのやりとりは私たち教師の仕事の醍醐味とも言えます。教師と子どもたちが一緒になって授業をつくっていくためにも授業改善に努めていきたいと思えます。